

広報

# 中部の森林

もり

Good Wood  
Workers

詳しくは  
こちら



写真  
募集中!

令和4年12月23日

林業従事者写真コンテスト

撮影は安全第一で

私の森語り「今までにない価値を創造する」  
株式会社山共 代表取締役 田口房国

写真：「シンボルツリー」(ふるさと体験 木曾おもちゃ美術館)

## 特集

- ・木曾おもちゃ美術館オープン

## 各地からの便り

- ・架線集材現地検討会を開催
- ・国有林モニター現地説明会を開催 ほか

## シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、  
秘蔵写真・今は昔の林業、中部の保護林



林野庁中部森林管理局

国民の森林・国有林



2022/No.225

十年・二十年・百年と  
子どもたちの笑顔を見守る  
「木曾おもちゃ美術館オープン」

【木曾森林管理署】

十一月十九日、長野県木曾郡木曾町に「東京おもちゃ美術館」の姉妹美術館として全国で十館目となる「木曾おもちゃ美術館」がオープンしました。

オープン当日は、木曾郡内外から四百人を超える親子連れなどが訪れ、木のおもちゃを手にした子どもたちの笑顔があふれていました。



天然木曾ヒノキのシンボルツリー

先だって行われたプレオープンでは、地元の子どもたちが来館し、記念に「きのわぎり」がプレゼントされました。これは、シンボルツリーを制作する際に切り取った枝を一時的にほどの輪切りにしたもので、袋を開けた瞬間、ヒノキの良い香りが漂い、付属の台座に載せて飾ると、ちよつとしたミニチュメントにもなります。また、山で生まれた木が、おもちゃ美術館へ引越す物語「木曾おもちゃ美術館の木の話」シンボルツリーができるまで」もセットで配布され、

木曾町の隣にある王滝村の国有林で二百年以上前に生まれた木が伐採され、加工場に運ばれて、皮むきなどを行い、おもちゃ美術館に運ばれる状況などが写真で紹介されています。特別な「きのわぎり」でシンボルツリーとつながる地元の子どもたちは、これからもずっと、身近なおもちゃ美術館を大切にしてくれると思います。



きのわぎり・木の話～シンボルツリーができるまで～

旧黒川小学校の木造体育館を木曾地域の木材を活用してリノベーションした木曾おもちゃ美術館は二階建てで、入ってすぐの吹き抜け部分に木曾を象徴する天然木曾ヒノキのシンボルツリーが来館者を出迎えます。

一階には中山道の「木曾十一宿」をイメージしたテーマごとの遊びが用意されている「こども木曾路」と二歳以下のお子さん専用の部屋があり、二階には木製の果物や野菜の収穫、お店やさんごっこ、木曾五木のみきなど、たくさんの遊びや仕掛けがあります。さりげなく、赤いエプロンの「おもちゃ学芸員」のみなさんが楽しみ方を教えてくれ、一番奥に進むと、体育館の舞台が残っているなど、新しさの中に懐かしさを感じる事ができます。

そして、別棟の旧校舎では、以前から行われていた木工や工芸、郷土食の体験ができ、ふらっと立ち寄れるミュージアムカフェでは、地元の食材を使った蕎麦や五平餅などの食事を楽しむことができます。



舞台からの眺め（イベント時には階段が観客席に）

林業が盛んな木曾町に誕生した木曾おもちゃ美術館は、郷土の自然や文化と遊びが融合した交流型のミュージアムです。  
木曾地域の県産材を中心に、二百五十種類、二千点もの木工玩具がそろい、「木」を体感できる場所です。木に親しみ、木を活かし、木とともに生きていく「木育」の活動が、ここから更に広がっていくことを期待しています。

○連絡先

ふるさと体験

木曾おもちゃ美術館

〒三九七-〇〇〇二

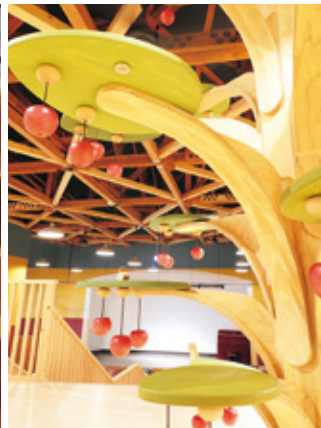
長野県木曾郡木曾町新開六九五九

電話：〇二六四-二七一〇一一

<https://kiso-toymuseum.com/>



木曾五木のつみき



木製りんごと奥に見える舞台



こども木曾路

## 木曾おもちゃ美術館の

## 「シンボルツリー」ができるまで

### START

2022年9月 伐採



2022年10月 加工



2022年10月 運搬

### GOAL

2022年10月 設置



樹齢：250年以上  
長さ：約7メートル  
重さ：約1トン  
末口径：約30センチメートル

【写真提供：木曾町役場】

架線集材現地検討会を開催

【資源活用課】

十月二十日、伊那市長谷の黒河内国<sup>うち</sup>有林において、管内の林業事業<sup>くろこ</sup>体を対象とした架線集材現地検討会を開催しました。

今回の検討会は、急峻な地形が多い管内において、先進的な機械を活用した効率的な架線系集材システムの導入により、生産性や安全性の向上を図り、かつ、林地保全に配慮した森林施業を進めることを目的に開催し、管内の林業事業体等、総勢約九十名が集まり、南信森林管理署の生産請負事業を<sup>くろこ</sup>実行している平澤林産<sup>うち</sup>の油圧式架線集材作業を見学し、意見交換等を行いました。

はじめに、油圧式集材機の製作会社から機器の機能と特性について説明を受けたのち、同集材機による先山からの吊り荷の自動走行・荷卸しと盤台における自動操作による荷外しまでの一連の作業を見学しました。

参加者からは、「自動走行の地



実行事業体による油圧式集材機の説明

点設定の機能について、もう少し説明してもらいたい「横取りで集材できる範囲はどれくらいか」などの意見や質問が出されました。また、実行事業体からは、同集材機を導入した背景などについての説明があり、熱心な意見交換が行われました。

このほか大型ドローンによるガイドブロックの荷上げの実演と活用事例が紹介されました。

今後とも現地検討会等を通じて、架線技術の伝承やスキルアップを行い、地域林業の生産性の底上げを図っていきたくと考えています。

社会貢献の森

「DCMの森 設楽町」植樹会

【愛知森林管理事務所】

十月二十二日、DCM株式会社（以下「DCM」）が愛知県北設楽郡<sup>きたしたらくぐん</sup>設楽町の段戸国<sup>きたしたらくぐん</sup>有林において植樹会を行いました。

DCMと当事務所は、植樹活動を通じて二酸化炭素吸収や水資源保護に貢献することを目的に、七月二十五日に「社会貢献の森」の協定を締結しており、「DCMの森 設楽町」と名付けられた森林での初めての作業となりました。

当日は、当事務所職員によるコンテナ苗専用の植栽道具（ディブル）を使った植栽方法の説明や安全指導などを行い、子ども二十一名を含む総勢七十三名で九百本のヒノキコンテナ苗を植栽し、植栽記念の標柱を家族毎に設置しました。

植樹会終了後にDCMが実施したアンケートでは、「貴重な体験ができて嬉しかったです。とても勉強になりました。」「学校ではできない体験で良かった。」「とても



参加者による植栽後の集合写真

良い記念になりました。また参加したいです。」などの感想が寄せられました。

普段、山に親しむことの少ない方にも国有林に来ていただき、未来の森林の姿を想像しながら、植栽していただいた様子で嬉しです。

来年度以降も「社会貢献の森」における活動計画により、植樹や下刈等が実施される予定であり、当事務所では、技術指導など森林づくり活動のサポートをしてまいります。

令和四年度

大鹿村育林祭に参加

【南信森林管理署】

十月二十七日、大鹿村鹿塩地区の栗洞地籍村有林にて大鹿村主催の育林祭が開催され、長野県、飯伊森林組合、地元猟友会、飯田警察署、村立学校関係者等とともに、当署の署長と大鹿森林官が参加しました。七月に計画されていた育林祭が、悪天候のため延期となっていたものです。

始めに、大鹿村長からのご挨拶と令和元年度に大鹿村制百三十周年記念により植樹した栗の木の下刈作業等の説明があり、続いて来賓者の挨拶が行われ、当署の署長からは、「我が国の木材自給率が四〇%を超えた。今後は木を切つて、使つて、植える循環型森林整備を推進するとともに、災害に強い森林整備も促進していく」旨の挨拶をしました。

その後、標高一、四〇〇付近の林道に接した村有林内で参加者による下刈作業等を行いました。令和元年度に植樹された栗の木



は、ニホンジカの食害から守るために防鹿ネットが巻かれていたが、ネットから出ている先端部分などは、食害を受けている箇所がありました。

また、栗の木に覆い被さるよう灌木等が繁茂しており、足元はイバラや石が転がっていたので、各目、足元に注意しながら、作業を行いました。

作業終了後は、大池高原にあるカフェテラスで豚汁などが振る舞われ、参加者は中央アルプス山脈を遠望しながら、育林祭が無事に終了したことを喜び合いました。



慣れた手つきで作業を行う南信署長

「北原白秋ゆかりの森」

記念植樹を開催

【東信森林管理署】

十一月三日、軽井沢町教育委員会・どんぐり運動の会と連携し、軽井沢町千ヶ滝の長倉山国有林において、軽井沢町民を対象とした植樹祭を行い、二十名ほどの参加者で、約七百本のカラマツのコンテナ苗を植樹しました。

この地は、北原白秋が初めてカラマツを見て感動したことが、文芸集「落葉松」に記されている場所であることから、後世に引き継げるよう「北原白秋ゆかりの森」と命名し、植樹祭の開会式において記念碑を建てました。

開会式では、霧が立ち込めていた植樹会場も、植樹を行う時には汗ばむくらいの陽気となり、軽井沢町民の皆様にも元中部森林管理局長である大槻氏も加わり、一本ずつ丁寧に植樹していただきました。

当日は順調に植樹できましたが、この場所は浅間山の麓で噴石が多く、百年生のカラマツの伐採



跡地であることから、植樹穴の作成が容易ではないため、事前に職員による穴の作成を行いました。

作業は、当署職員だけでなく、隣接する北信署や南信署などの若年層を主体にした職員約三十名で行い、コンテナ苗専用の器具を使用しましたが、ほとんどの職員は初めてだったため、現場作業の苦労を経験できる良い機会となりました。

今後、北原白秋のように、この森に感動し、新たな作品が世に発表されることを期待しつつ、多くの方に親しまれる森になることを願っています。



次々に植樹する参加者の方々



紅葉が見頃な赤沢自然休養林内を散策



人工林と天然林の違いについて確認



天然木曽ヒノキ製材品のセリを体験



萩原土場を見学

国有林モニター

現地説明会を開催

【企画調整課・木曽森林管理署】

十月二十五日、木曽森林管理署管内において、現地説明会を開催し、二十名の国有林モニターの方々にご参加いただきました。

午前中は、「日本美しの森 お薦め国有林」に選定されている木曽郡上松町の「赤沢自然休養林」において、木曽森林管理署長から署管内の概要について説明した後、日本三大美林の一つである木曽ヒノキを中心とした木曽五木（ヒノキ、サワラ、アスナロ、ネズコ、コウヤマキ）が林立する自然休養林内を散策し、人工林と天然林の違い、木曽の巨樹などをご覧いただきました。ながら、森林の歴史や管理方法などについて、森林技術指導官から説明を行いました。

午後は、地域で伐採された丸太が集まる「萩原土場」へ移動し、丸太の自動選別機や土場の使用用途についての説明を企画官が行い、その後、「木曽官材市売協同組合」へ移動し、木材の市売りについて

ご説明いただき、地元の各工場で製材された製品が並ぶ展示場にて、セリの模擬体験をさせていただきました。

最後に令和三年に新築された「木曽町役場」を訪問し、地元で産出された木材がふんだんに使用され、木のぬくもりを感じる庁舎や冷暖房用の木質バイオマスボイラー施設を見学させていただきました。

モニターの皆様からは、「木材の伐採、流通、使用までの一連の流れがよく理解でき、大変勉強になった」「歴史を感じ、長い目で見ると林業という産業をなくしてはならない」「丸太をサイズ毎に自動選別する仕組みが面白い」「木材のセリ体験が初めてで楽しかった」「木曽森林管理署職員の説明が特に良かった」「次回の開催も楽しみにしている」といった感想が聞かれました。

今回の現地説明会を通して、国有林モニターの皆様からいただいたご感想、ご意見を、今後の国有林野の管理経営に活かすよう努めてまいります。

シリーズ

# 森林官からの便り

【南信森林管理署  
駒ヶ根森林事務所】

森林官 村田 則幸  
森林官 村田 則幸

駒ヶ根森林事務所は、長野県駒ヶ根市に所在し、駒ヶ根市、伊那市、箕輪町、飯島町、松川町、南箕輪村、宮田村、中川村内の約一万一千畝の国有林と約七百畝の官行造林を管轄しています。

天竜川(八ヶ岳連峰の赤岳を源に諏訪湖から静岡、愛知県を経て太平洋へ注ぐ一級河川)の西側にある国有林の大半が氷河の働きによってできた希少で特徴的な氷河地形で、貴重な高山植物等を有しており、令和二年三月に国内で五十七カ所目の国定公園として「中央アルプス国定公園」に指定されました。同年には環境省・文部科学省・農林水産

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

省で共同策定した「第二期ライチョウ保護増殖事業実施計画」を踏まえ、中央アルプスにおける個体群復活事業が実施され、三家族二十羽を移植してからは、ライチョウと出会うことを楽しみにした登山者や観光客が増加しており、関係機関と連携し、



駒ヶ池と宝剣岳



千人塚と南駒ヶ岳・空木岳

天然記念物の保存管理、山岳観光の安全と健全な推進を目的とした各種取組を行っています。

一方、ニホンジカやニホンザルの被害に悩まされている上伊那地域では、長野県や市町村などと連携し、野生動物対策を行っており、当事務所では、グリーン・サポート・スタッフによる高山植物保護活動、地元猟友会によるニホンジカの個体調整を目的とした捕獲駆除委託事業を行っています。

また、伊那谷地域は花崗岩地帯が多く、山岳地特有の集中豪雨があるため、自然災害も多いことから治山や林道の災害復旧事業も進められています。



事務所前にて (中央が筆者)

■未来の担い手へのメッセージ  
三千以上の山岳地の管理業務から、ヒノキ、カラマツ等の人工林の保育、製品生産、野生獣害対策、自然災害対応など、多種多様な業務に携わり、地域貢献を常に念頭にして共に発展し、共感しながら地域との協力体制をつくり、国有林野で力を発揮していただきたい。

シリーズ

# 「私の森語り」

もりかた

森林・林業との関わりの中で、  
様々な課題に挑戦されている方  
の取組を紹介します。

「今までにない価値を創造する」



(株)山共  
代表取締役  
たぐち けんいち  
山口 房国

## ■自己紹介

岐阜県東白川村で林業、製材業を営んでいます。

自社林の活用として二〇二〇年に森林レンタルサービス「フォレンタ」を開始し、現在テレビをはじめとした多くのメディアで取り上げていただいております。

## ■活動内容

「フォレンタ」は森林を区分けし（一〇〇〜三〇〇坪）、年間契約でキャンパーの方に貸し出すサービス。山主さんや地元の運営者さん



利用者が草刈りや枯れ枝を集めることで林内が綺麗になっていく

に経済的なメリットがあると同時に、メインターゲットである都市部の方には静かに過ごすことができるプライベートな森林空間を手に入れる機会になっています。また、観光資源などに乏しい山村にあつては、関係人口を増やすことにも有効です。



アナログの中にある温かみ

自社林で十七区画から始めた東白川村のフォレンタも、他の山主さんの山も借りながら、この二年で七十七区画に増えました。このスキームをフランチャイズ化し、六都道府県八地域で展開中。今後も順次広げていく予定です。

## ■メッセージ

現在、山村からは若者が減り、そこに暮らす住民からは、熱気や自信が失われつつあります。まるで現代社会には山村がいない存在であるかのようにです。しかし、デジタル化や効率化が進めば進むほど、アナログでリアルなものの価値が再認識されるのではないのでしょうか。

フォレンタはまさに、日常を都市部で過ごす人と超アナログな森林をつなぐサービスです。これにより山村が必要とされている存在であることが再認識され、山村に住む人が誇りや自信を取り戻すきっかけになれば嬉しいです。

これからの森林は二酸化炭素の吸収源としての位置付けや心豊かな社会構築に資するフィールドとして、今までにない価値を創造できる場であると思います。それを実行できる立場にあるものとして、これからも挑戦を続けていきたいと思っています。



自分の持ち山のように  
愛着が湧いてくる

## ○連絡先

〒五〇九一三〇一  
岐阜県加茂郡東白川村越原  
九七六一〇  
(株)山共 フォレンタ事業部  
<https://www.forenta.net>





シリーズ

秘蔵写真

# 今は昔の林業

第20回

中部森林管理局技術普及課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

## 「白鳥貯木場」その一

貯木場は丸太を集積する場所ですが、名古屋市熱田区の堀川沿いにあった白鳥貯木場は歴史も古く巨大なものでした。江戸時代初期に名古屋城の築城の際に使われた材木や船の置場が始まりだと考えられています。

「上写真」 明治時代末頃の貯木場風景



「下写真」 起重機による積み上げ (大正十年代)

江戸時代、明治時代は木曾川のイカダを使った運材の終着点でしたが、大正時代からは鉄道によっても木材が運び込まれるようになります。後にはトラックによる運材の時代を迎えます。



貨車からの荷卸 (大正10年代)

白鳥貯木場は中部地域の代表的な木材流通基地として多くの入・木材が入りし、周辺には多くの木材業者が軒を連ねました。しかし、昭和四十三年には名古屋市外に西部木材市場が作られたことにより木材業者の多くが移転し、輸入材の増加といった時代の変化もあり、取り扱う木材量は減少していきました。貯木場の機能は平成八年に廃止となり、現在は跡地の一角に中部森林管理局の名古屋事務所と「熱田白鳥の歴史館」が置かれています。



昭和40年代前半の貯木場風景

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかしの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、QRコードを読み込んでください。



# 南アルプスを代表する山岳地形の植物群落

## 南アルプス(仙丈ヶ岳等)生物群集保護林

### 設定目的

当保護林区域には、秀麗な山容から「南アルプスの女王」と称される仙丈ヶ岳(三三三三)や、多くの褶曲と急崖から迫力のある山容の甲斐駒ヶ岳(二九六六)など南アルプスを代表する名峰が連なっており、広大な石灰岩が露出した幕岩やカール等の特異な山岳地形・地質が見られます。

この地域に生育する高山植物や天然カラマツ、シラビソ、ヤツガタケトウヒ、ヒメバラモミ等を一体的に保護しています。

### 地況・林況

南アルプスの山々は高い標高と大きな山容、全般になだらかな稜線が特徴です。

仙丈ヶ岳の山頂付近には三つのカール(圏谷)があり、高山植物が非常に豊富なことで知られています。

当保護林の林況はコメツガやトウヒ等の針葉樹の天然林が主体となっています。

ニホンジカによる高山植物の食害を防ぐため、馬の背ヒュッテ付近に防護柵を設置するなど、地域の関係者が協働し高山植物等の保護に向けた取組が行われています。

仙丈ヶ岳 (3,033m)

所在地  
長野県伊那市長谷



甲斐駒ヶ岳 (2,966m)

※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載しておりません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年(大正4年)以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。



※詳細は、QRコードを読み込んでください。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



乗鞍(中信)GSS  
6/12 大雪渓を登るスキーヤー



美ヶ原GSS  
6/20 サラサドウダンツツジ



天生GSS  
6/20 新緑のカツラ門



上高地GSS  
6/26 ウグイス

**令和4年 GSS撮影  
フォト特集**

各地のGSS(グリーンサポート  
スタッフ)が今年度撮影した活動  
写真の中から、デジタル森林紀行  
に追加予定の写真を紹介します!



中央アルプスGSS  
8/3 ライチョウ



北アルプスGSS  
8/10 朝焼けの唐松岳



カヤの平GSS  
9/8 雨の目の自然休養林内



乗鞍(中信)GSS  
10/9 東大道路より南アルプス方面

### 木曽森林ふれあい推進センター 移転のお知らせ

【新庁舎住所】  
〒397-0001 長野県木曽郡木曽町福島5473-8  
(森林総合研究所 旧木曽試験地事務所内)

11月24日(木)に庁舎を移転しました。  
電話番号は変更ありません。  
引き続き、よろしくお願いいたします。



### 編集長だより

(中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、  
migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。)

今年最後の「広報 中部の森林」も無事に発刊することができました!「私の森語り」や「国有林モニター紹介」にご寄稿いただいた皆様、山岳地帯の巡視や高山植物の保護などに取り組みながら、美しい風景写真を提供してくれた各地のGSSの皆様、取材対応や情報提供などをしてくれた皆様、ご協力いただきありがとうございました<(\_)> 局広報のスタッフ2名、来年も笑顔で「広報 中部の森林」を発刊していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

「林業従事者 写真コンテスト」の作品は、今月23日まで募集しておりますので、引き続き、林業従事者の皆様からのご応募をお待ちしております☆

年末年始、疲れがたまってしまう方も多と思います。ちょっとした時間がありましたら、ぜひ「デジタル森林紀行」で休憩してみてください。いつも私を癒してくれる白いライチョウ(5月号表紙)の写真もさりげなく追加しておきます!!

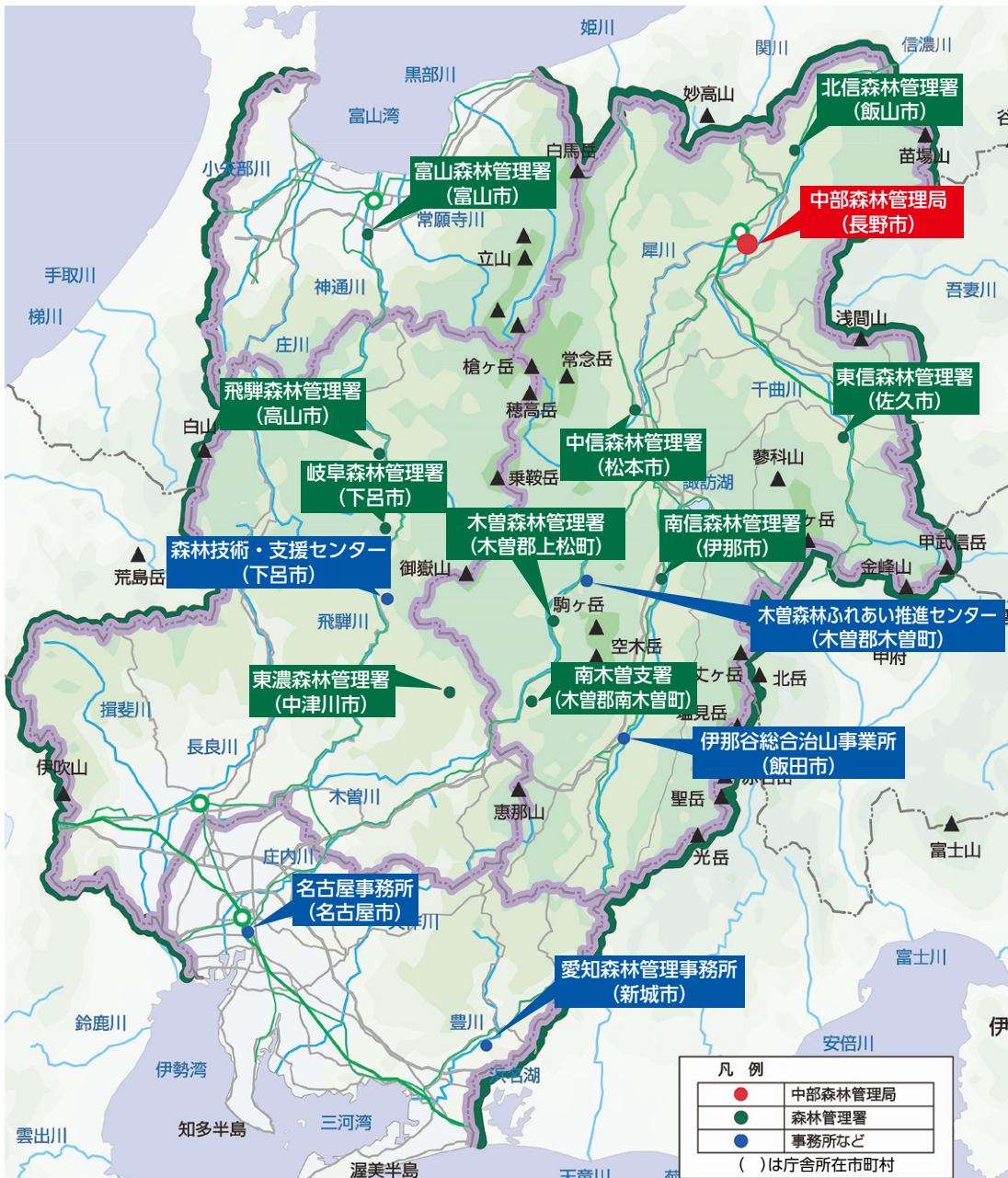
それでは皆様、よい年をお迎えください(^\_^)/



デジタル森への入場ゲートは、右のQRコードを読み込んでください。



6. 「冬の戸隠山」(北信署管内)



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下のQRコードを読み込んでください。



中部森林管理局ホームページ



広報「中部の森林」



用語の解説  
本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡木曽町読書1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局  
編集：総務課 広報  
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5  
電話：026-236-2531  
Mail：migoro@maff.go.jp  
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。  
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)  
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>  
または、右のQRコードを読み込んでください。



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。